

増加を続けてきた我が国の総人口は 2008 年頃にピークを迎え、本県でも全国より 20 年以上早く、1985 年をピークに人口減少局面に入っています。

そのような中であって、近年著しい増加傾向を示しているのが外国人人口です。

総務省「人口推計」によると、我が国の外国人人口は、2010 年の約 170 万人が 2023 年には約 320 万人と、10 年余りの間に約 2 倍に増加しました。

本県においても例外ではなく、同じ 10 年余りの間で外国人人口は約 1.6 倍に増加しています。

それでは、各都道府県人口に占める外国人の割合についてはどうでしょうか。

2023 年についてみると、外国人の割合が全国で最も高いのは東京都の 4.5% で、本県の 1.5% の 3 倍となりました。

また、我が国の人口に占める東京都のシェアをみると、日本人では約 11% ですが、外国人では約 20% と 2 倍近いシェアを占めており、外国人は日本人以上に大都市に集中する傾向がみられます。

さらに、外国人の滞在の目的等についても、地域によって特徴があるようです。

法務省「在留外国人統計」（2023 年 12 月現在）によると、技能実習生が在留外国人に占める割合は、全国では約 12% であるところ、本県では約 25% と 2 倍以上高くなっています。

一方、東京都では、技能実習生の割合は約 2% と低く、多くの企業や教育機関が集まるその立地から、いわゆる高度人材や留学生の比率が高くなっています。

今後、外国人の増加が地域社会にどのような変化をもたらしていくのか、注目されます。

